

知識及び活用能力共に平均との振り幅が狭まりました！

4月に行われた全国学力・学習状況調査での本校の結果をお知らせします。

[設問における本校の特徴：全国平均に比べて]

国語A（主として知識を問う問題）

- ・ 漢字の読みはほぼ安定しているものの、（全3問の平均が約0.4ポイント）漢字の書きについては問によってばらつきがあり、全体的には下回っています。（全3問の平均が約7ポイント）

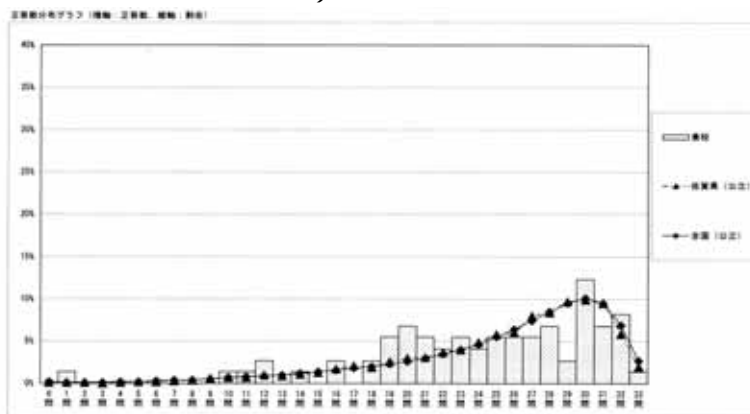
例：燃料をオギナウ 正答率56.2（全国平均53.7）

世界イサンを見学する 正答率61.6（全国平均75.2）

- ・ 語彙力についても、敬語はやや上回っているのに対して（設問8三ウ 4.5ポイント）同音異義語は大きく下回りました。（設問8三エ 6.2ポイント）

- ・ 「読むこと」については定着率が低いと出ています。（4.6ポイント）

- ・ 「話す・聞く」については[聞き取り、メモをする]面がやや上回っています。（設問4一が1.8ポイント）



国語B(主として活用する力を問う問題)

- ・ 「詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書く」という設問は、全国平均80.8に対し本校86.3と上回りました。
- ・ 全国平均との差を、国語A全体と比べると1.9ポイントということで、活用能力のほうが少々劣るという結果になりました。

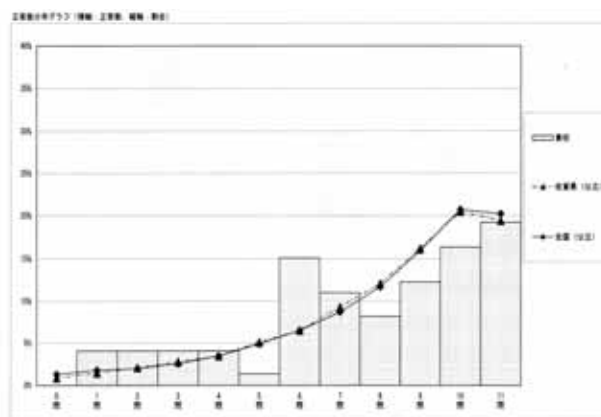
全体における本校の特徴

- ・ 国語A・B共に全国平均をやや下回っています。
- ・ 無回答率0%が30問中11問になるなど、全体的に無回答率が低いという結果が出ました。

[結果からの考察及び今後につなげて]

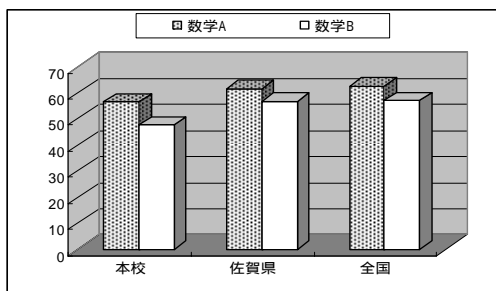
NRT検査等によるとこの学年は、テストごとに教科の平均点が上がったり下がったりしており、特に得意・不得意教科というものはなく推移してきています。国語科の学習に対しても特に苦手意識は高くありませんが、テストに現れる定着率が低いという印象がありました。そのために教員の指導法の工夫・改善はもちろんです。家庭学習による反復学習の習慣作りが必要でした。漢字の習得や語彙力広げの他にも、日々の予習復習を促す指導を行ってききましたが、その定着には未だ個人差があり、平均点としては伸び悩んでいる面がありました。そこで、授業の中で、変化のある繰り返いを意識して反復学習を試みています。

昨年度は、設問によって全国平均との差が大きく上下する面がありましたが、今年度は大きくポイントが高いものも少ないものもなく、全体的に平均化しているという特徴が感じられました。今回の結果を受け、基礎・基本の力のみならず、非テキスト型の学習も取り入れながら、幅広い国語学習に力を入れたいと思います。



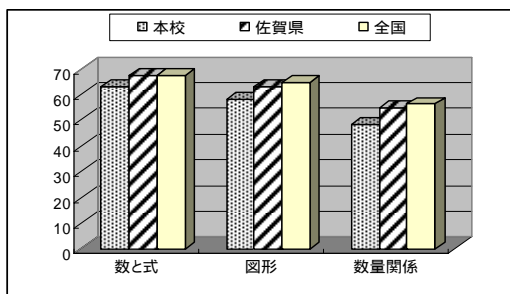
『活用する力』に課題

[設問における本校の特徴：全国平均に比べて]



数学A（主として知識）

学習指導要領の領域では、全てにおいて全国の正答率を下回っていました。全体的な無答率も全国よりも高く、数学に対するの苦手意識が強く、最後まで粘り強く解こうとする意欲も低い結果がうかがえます。



・「数と式」領域においては、全国をやや下回っていました。指数の計算の仕方は全国とほぼ同じながらも、昨年度同様に全国を上回っていました。

$$1(2)(-3^2) \quad \text{正答率 } 76.7 \quad (\text{全国平均 } 75.7)$$

しかし、係数に分数を含む一元一次方程式を解く問題の正答率は、全国を大きく下回り、4割を切っています。無答率も2割を超えるなど苦手意識が強い生徒が多いこと

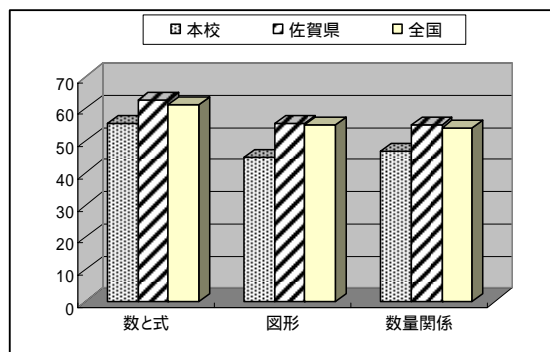
がわかります。また、問題を解決するために、2通りに表せる数量に着目する問題の正答率も2割程度と低く、無答率も全国と比較しても大きく上回っていました。

・図形領域においても、ほとんどの問題で全国を大きく下回っていました。特に平行四辺形が線対称か点対称か選ぶ問題や回転体を選ぶ問題、底角が等しいことを記号を用いて表す問題の正答率は全国との差が大きかったです。

・数量関係領域においても同様で、比例反比例・一次関数の問題は全国を大きく下回っていました。確率では、全国をやや下回る結果でした。

数学B（主として活用）

学習指導要領の領域では、全てにおいて全国の正答率を大きく下回っていました。



・全国と比較して差が顕著なものを挙げます。

1(2) 紋切遊びのできる模様だけにみられる図形の性質を説明する 正答率 31.5 (全国平均 46.2)

2(2) 3段目の数が4の倍数になることを説明する
正答率 28.8 (全国平均 40.6) 無答率 27.4

3(3) 蛍光灯と白熱電球の費用について、2つの総費用が等しくなる時間を求める方法を説明する
正答率 8.2 (全国平均 19.1) 無答率 63.0

4(2) 証明したものと仮定以外に分かることを選ぶ 正答率 45.2 (全国平均 63.3)

基礎基本の定着が進んでいないため、毎時間の学習内容に興味・関心を持たせる手立てを取り、確実に理解させる授業展開を行っていきたい。また、数学的な意味を考え、事象を式の意味に即して解釈したり、結果を数学的な表現を用いて説明したりすることを苦手としているので、読解力や表現力の向上を目指したい。

